DENON

ホームシアターシステム

DHT-FS1

取扱説明書

安全にお使いいただくために—必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

設置のしかた

接続のしかた

設定のしかた

操作のしかた

その他の機能

その他について

ご使用になる前に

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

❑ **フロントスピーカーユニットの梱包箱に付属**

オーディオケーブル …1 本 （ケーブルの長さ：約 1.5m）	リモコン（RC-1062）…1 個 単 4 形乾電池 …………2 本
光伝送ケーブル ……… 1 本 （ケーブルの長さ：約 1.5m）	フット …………… 各 4 個 （高さ：25mm）（高さ：35mm）
壁掛け金具 ……………2 個 壁掛け金具用ねじ ……4 本	縦置き用スタンド ……2 個
接続用ケーブル ………1 本 （ケーブルの長さ：約 3m）	すべり止め （サブウーハー用） …………… 1 シート 8 枚

AC コード（本機専用、接続済み） ……………………1 本
取扱説明書（本書） ……………………………………1 冊
製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表 …………1 枚
保証書【梱包箱に添付】

- 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

《ご使用になる前に》

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

《ご使用になる前に》

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜け

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

本機の特徴

❏ 独自開発 X-SPACE SURROUND アルゴリズム解析による音場の創出

本機には、センタースピーカーユニットとサブウーハーの 2 つのユニットだけで臨場感たっぷりのサラウンド効果を得ることができる独自開発の X-SPACE SURROUND アルゴリズム解析技術を搭載しています。広い視聴エリアと自由度の高い設置ポジションも確保しました。
必要最低限のスピーカーでサラウンドサウンドを構築できるため、複数のスピーカーの干渉が少なく、自然なサウンドを得ることができます。また、ユニットの特性を引き出す緻密なイコライジング処理により繊細な音楽のディテールから迫力ある映画のワンシーンまで再現することができます。

❏ 豊富なサラウンド再生

DVD の音声標準フォーマットのドルビーデジタルやオプションフォーマットの DTS デコーダーの搭載はもちろん、地上デジタル放送や BS デジタル放送が採用している AAC 音声フォーマットのデコーダーも搭載しています。DVD やデジタル放送から映画、音楽、スポーツやバラエティーなどを幅広く、たくさんのサラウンドソースを臨場感たっぷりにお楽しみいただくことができます。
また、ステレオソースをサラウンド再生するドルビープロロジック II デコーダーの搭載や、深夜のサラウンド再生に便利なドルビーヘッドホン※にも対応し、様々なソースのサラウンド再生をお楽しみいただけます。

※ ドルビーラボラトリーズとレイクテクノロジー社との共同開発による立体音声技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。

❏ レイアウトフリー

平置きはもちろん、付属の専用金具を使って壁掛けにすることもできます。また、専用ラック（ARC-FS1、別売り）を使って、スマートに設置することもできます。

❏ その他の機能

- DENON Control Dock for iPod® 対応
- Auto Power Standby/On
- SDB 回路搭載
- アクティブセンタースピーカー対応のスピーカーモード
- サブウーハーワンタッチ接続
- 待機時消費電力 1W 以下

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

“DTS” はデジタル・シアター・システムズ社の商標です。

❏ AAC に関する米国パテントナンバー

08/937,950	08/678,666	5,299,240
5848391	98/03037	5,197,087
5,291,557	97/02875	5,490,170
5,451,954	97/02874	5,264,846
5 400 433	98/03036	5,268,685
5,222,189	5,227,788	5,375,189
5,357,594	5,285,498	5,581,654
5 752 225	5,481,614	05-183,988
5,394,473	5,592,584	5,548,574
5,583,962	5,781,888	08/506,729
5,274,740	08/039,478	08/576,495
5,633,981	08/211,547	5,717,821
5 297 236	5,703,999	08/392,756
4,914,701	08/557,046	
5,235,671	08/894,844	
07/640,550	5,299,238	
5,579,430	5,299,239	

準備の手順

設置する（☞8 ～ 10 ページ）

接続する（☞11、12 ページ）

簡単に設定する（☞13 ページ）

再生する（☞15 ページ）

この他にもいろいろな設定や操作がおこなえます。

- ❏ **詳細設定**（☞14 ページ）
- ❏ **テレビ音声の再生**（☞15 ページ）
- ❏ **iPod® の再生**（☞15、16 ページ）

ステレオ音のエチケット

- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

取り扱い上のご注意

携帯電話のご使用について

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でご使用ください。

お手入れについて

本機の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用してください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

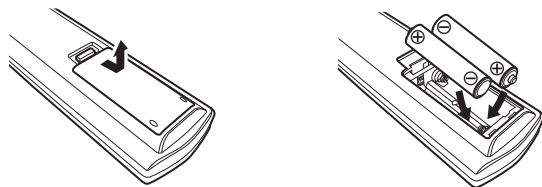
ご注意

ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますのでご使用にならないでください。

リモコンについて

乾電池の入れかた

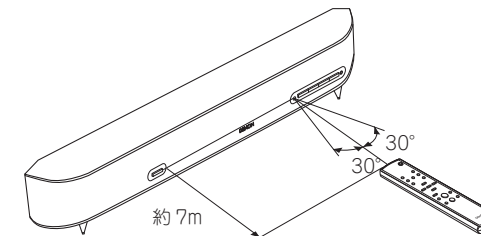
① 矢印のようにロックレバーを押して引き上げる。

② 単 4 形乾電池（2 本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れる。

③ 裏ぶたを元通りにする。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入したりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池を交換するときは、あらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

リモコンの使いかた

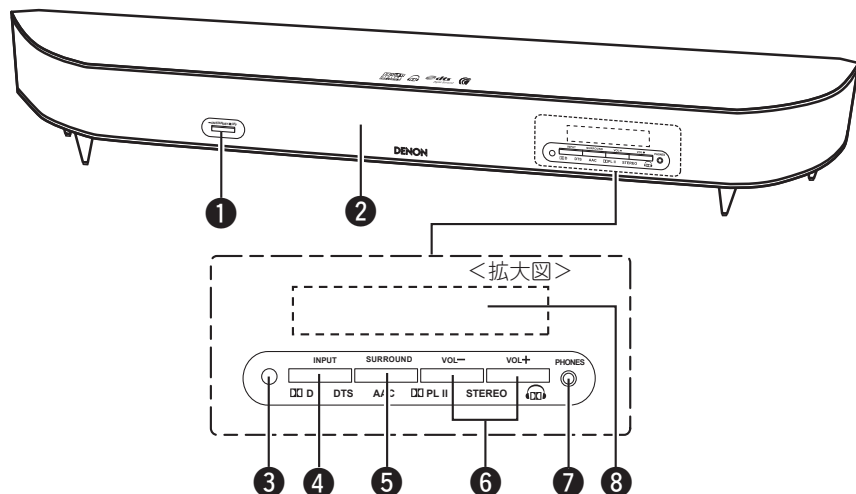
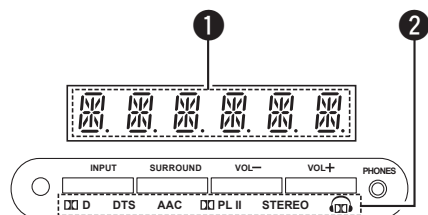
- リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 左右 30° までの範囲で約 7m 離れたところまでご使用になれます。

ご注意

リモコン受光部に直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

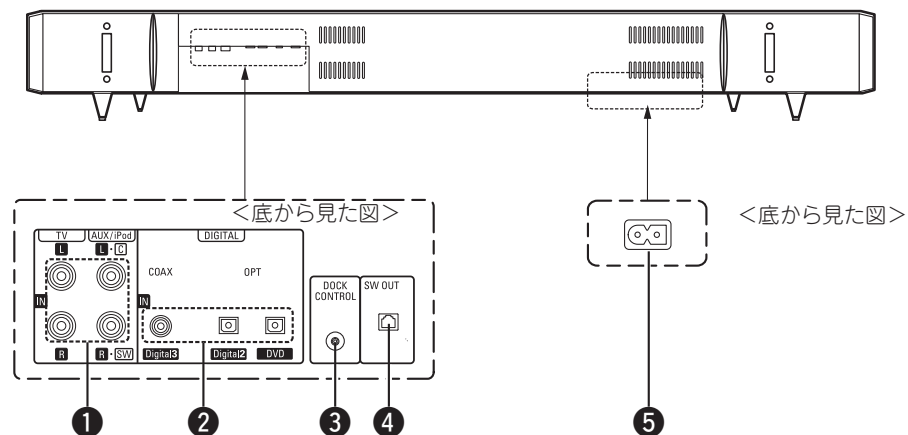
各部の名前について

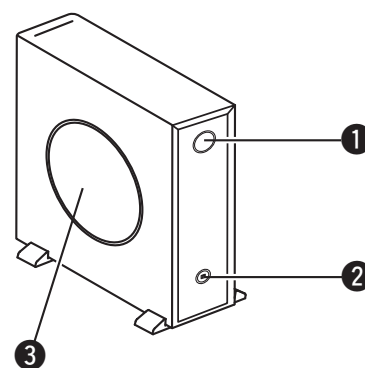
各部のはたらきなど詳しい説明については、( ) 内のページを参照してください。

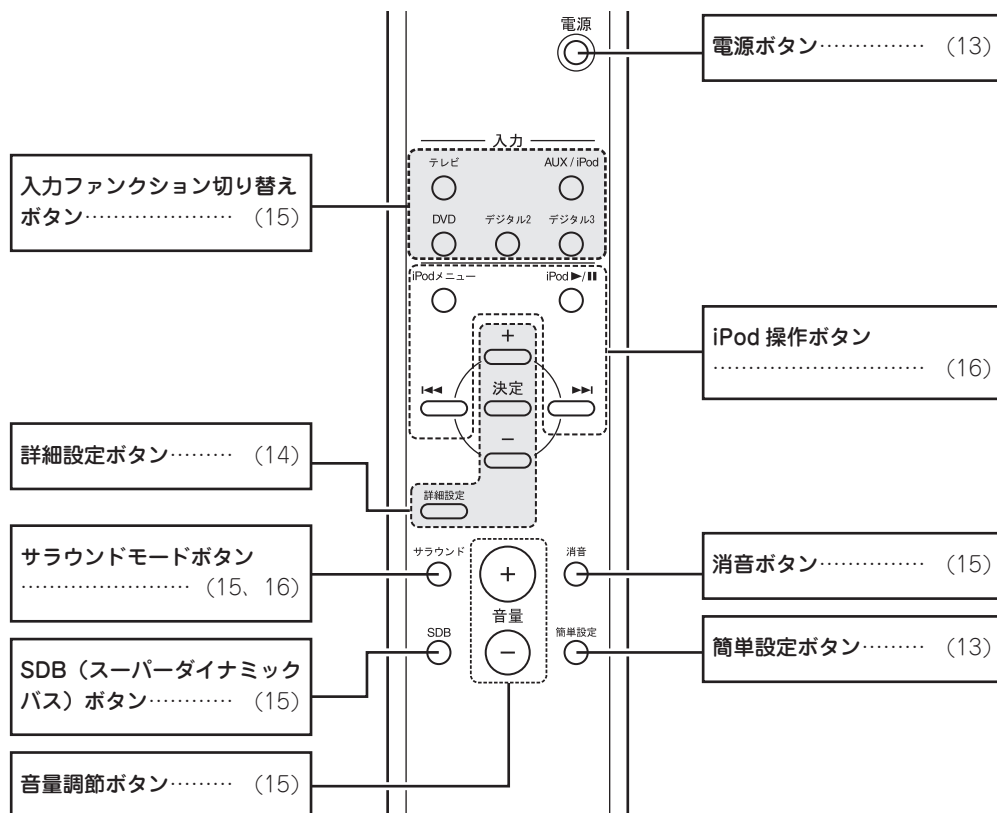
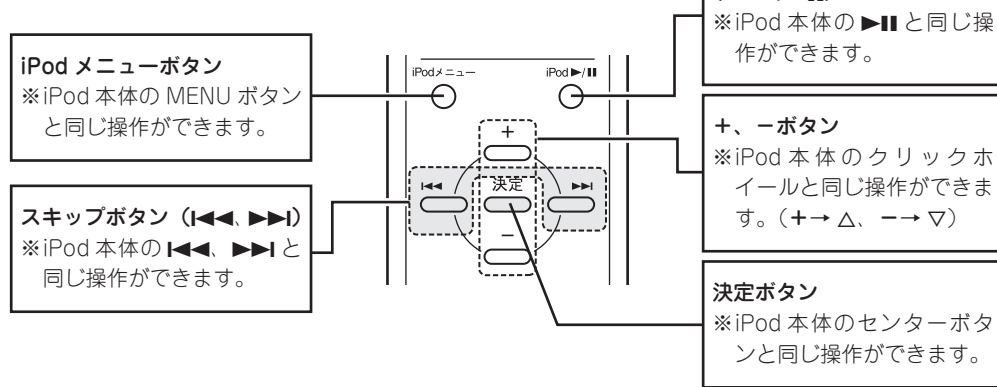
フロントスピーカーユニット

❑ フロントパネル

❶ 電源操作ボタン（▂ON/STANDBY ■OFF） …（13）
❷ スピーカー部
❸ リモコン受光部 ……………………（6）
❹ 入力ファンクション切り替えボタン（INPUT） ……………………（15）
❺ サラウンドモード切り替えボタン（SURROUND） ……………（15、16）
❻ 主音量調節ボタン（VOL + / −） ……………………（15）
❼ ヘッドホンジャック（PHONES） ……………………（16）
❽ ディスプレイ

❑ ディスプレイ

❶ ディスプレイ
❷ 入力信号および サラウンドモード表示 ……………（17）

❑ リアパネル

❶ アナログ音声入力端子 ………（11、12）
❷ デジタル音声入力端子（OPTICAL/COAXIAL） ………（11）
❸ ドックコントロール端子（DOCK CONTROL） …………（12）
❹ サブウーハー音声出力端子（SW OUT） ……………………（10）
❺ AC インレット（AC IN） ………（12）

サブウーハーユニット

❶ ダクト部
❷ サブウーハー音声入力端子 ………（10）
❸ スピーカー部

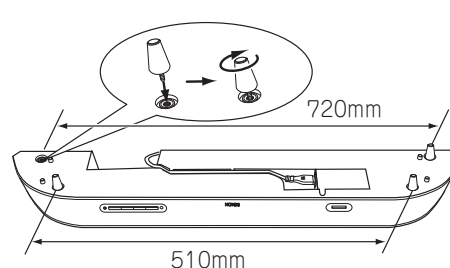
リモコン

❏ iPod 操作ボタン

設置のしかた

フロントスピーカーユニットの設置について

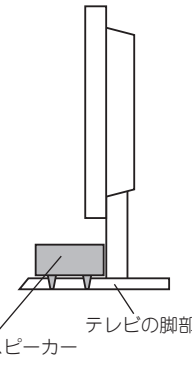
3 つの設置バリエーションからお選びください。

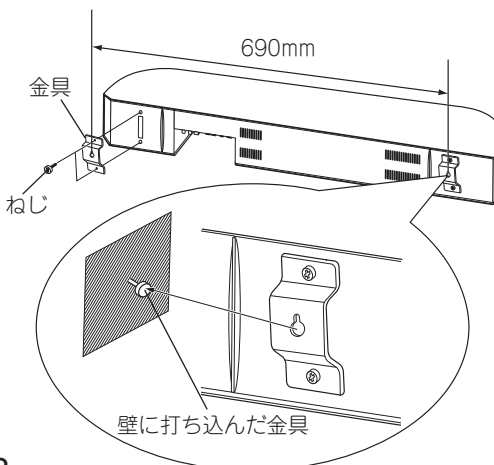
平置き

フットを本体底面のねじ穴へ取り付けてください。

- 付属の 2 種類のフット（25mm/35mm）から設置場所に最も適したものを選ぶことができます。

ご注意
本機が傾かないように、同じ種類のフットを取り付けてください。

- ねじタイプのフットを使うと、フラットテレビの脚部を本体の底のスペースに入れることができます。

※テレビの形状によって図のように設置できない場合があります。
※本機でテレビのリモコン受光部を隠さないようご注意ください。

壁掛け

付属の壁掛け金具 2 個を付属のねじで本体にしっかりと取り付けてください。

警告

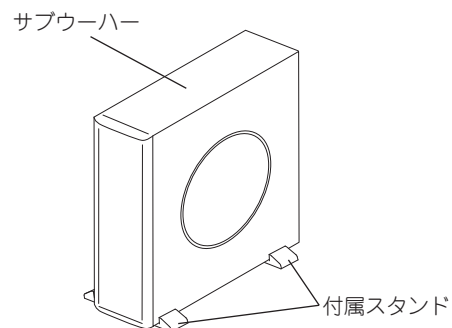
- 安全にお使いいただくために、本体の上に物をのせたり、寄り掛かったりしないでください。
- 壁への取り付けは安全性確保のため、専門施行業者へ依頼してください。
- 接続ケーブルを足や手に引っ掛けて本機を落下させることのないように、必ず壁などに固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。また、その後、定期的に落下の可能性がないか安全点検をおこなってください。取り付け場所、取り付け方法の不備による損害、事故について、弊社は一切その責任を負いません。

専用ラック

専用ラック（ARC-FS1、別売り）に設置します。詳しくは、ラックの組立説明書をご覧ください。

サブウーハーの設置について

縦置き

サブウーハーは、図のように付属のスタンドを使って設置してください。

ご注意

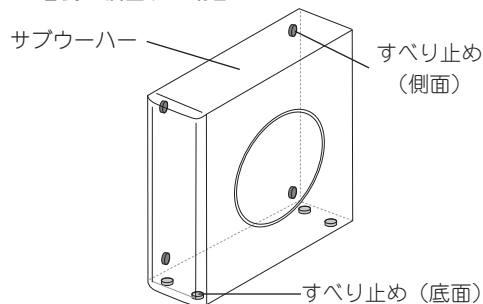
近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色むらを発生する場合があります。

専用ラック

専用ラックに収納する場合は、図のように側面、底面にすべり止めを貼り付けてください。

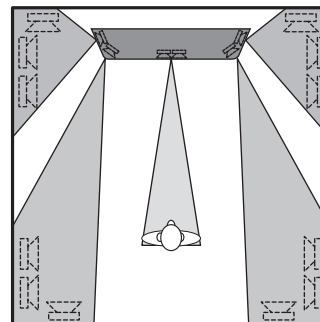
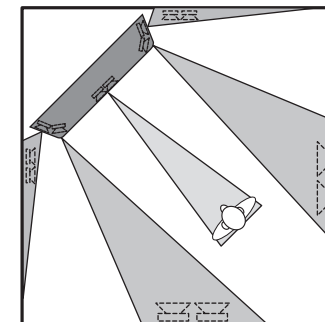
- 専用ラックの左側に収納する場合は、サブウーハーの天面と底面を反転してください。
  すべり止めは底面と側面（スピーカー部の反対側）に貼り付けてください。

＜右側に設置する場合＞

《設置のしかた》

最適な設置レイアウトについて

- 本機は、フロントスピーカーユニットとサブウーハーの構成で、5.1 チャンネルのリアルなサラウンド臨場感を再現することができます。

理想的な配置例

＜壁と平行に設置＞

＜コーナーに設置＞

設置のポイント

次のように設置すると、よりよいサラウンド効果が得られます。

- 視聴の際はフロントスピーカーユニットから 1m 以上離れて聴く。
- フロントスピーカーユニットを左右の壁から離す。
- テレビラックに収納する際は、ラックの前方に置き、扉を開いて使用する。

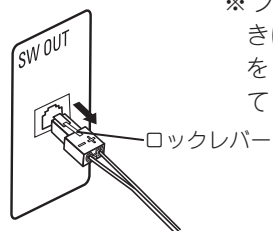
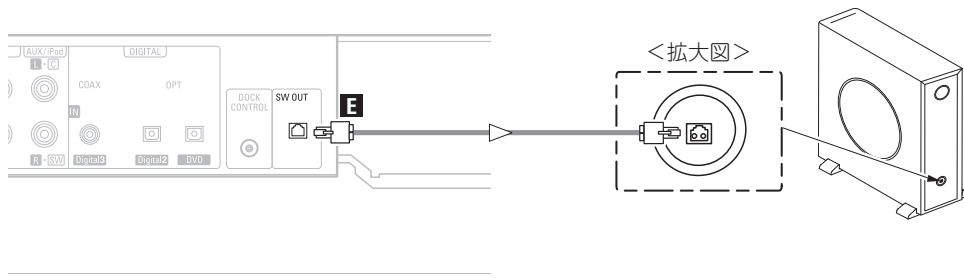
ご注意

- 本機の上にテレビなど、大きなものや重いものをのせないでください。

- 部屋の大きさや本機とリスニングポジションの距離などは、「詳細設定のしかた」の“ROOM”で設定することができます（☞14 ページ）。

フロントスピーカーユニットとサブウーハーの接続

付属の接続用ケーブルを使用します。

<底から見た図>

※プラグをはずすときは、ロックレバーを押しながら抜いてください。

ご注意

接続用ケーブルのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。不完全な接続は、雑音や動作不良の原因になります。

《設置のしかた》

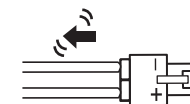
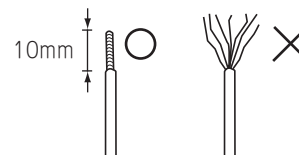
スピーカー接続用ケーブルの変えかた

付属の接続用ケーブルを延長したい場合など、接続用ケーブルを交換することができます。

① ロックレバーと反対側のリリースボタンを押しながら、ケーブルをプラグから抜く。

② 交換するケーブルの先端の被覆をはがして、先端がばらけないようにしっかりよじる。

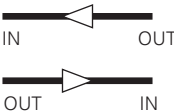
③ リリースボタンを押しながら、ケーブルの極性＋と－をプラグの＋と－に合わせて芯線を差し込む。

④ リリースボタンを離し、ケーブルを軽く引っ張って抜けないことを確認する。

接続のしかた

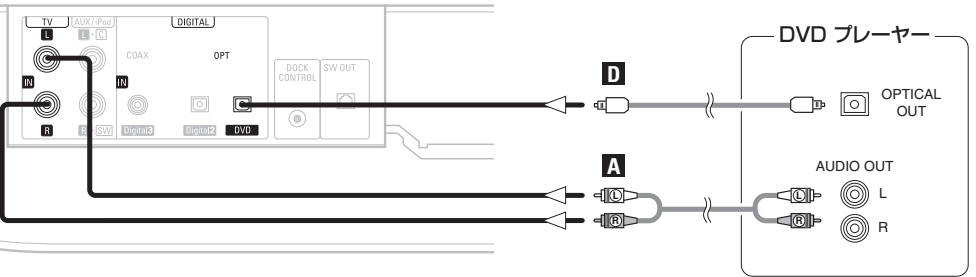
- 本機には 3 つのデジタル音声の入力をはじめ、アナログ音声や iPod の音声入力ができます。
- iPod の接続には DENON 製の iPod 用コントロールドック（ASD-1R、別売り）が必要です。
- ここでは DVD、テレビ、iPod の接続について説明します。

ご注意
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因になります。

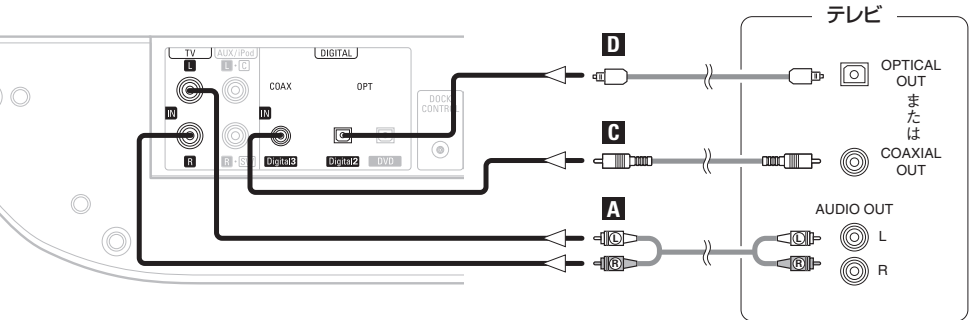
接続ケーブルの表示

下記に示す接続ケーブルを使用して、他の機器を接続してください。

DVD プレーヤーの接続

- サラウンド再生をお楽しみいただくために、DVD プレーヤーとの接続には、デジタル音声接続をおすすめします。
- DVD プレーヤーの映像出力はテレビの映像入力に接続してください。

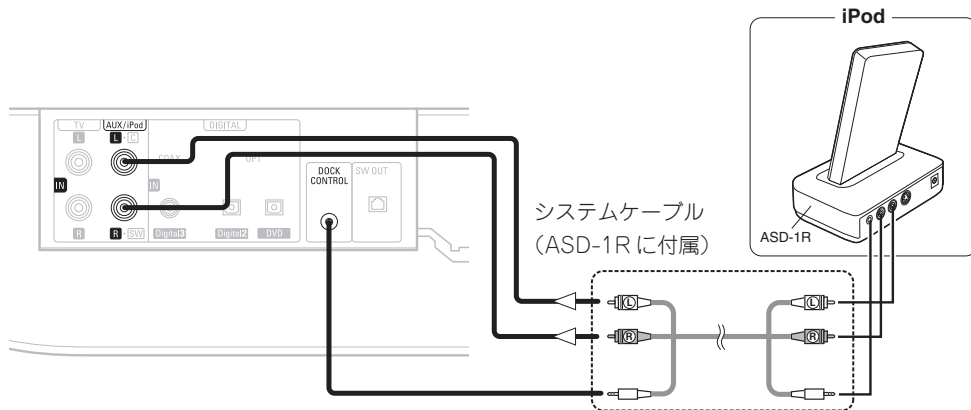
<底から見た図>

テレビの接続

デジタル放送番組のサラウンド対応番組をお楽しみいただくために、デジタルテレビとの接続には、デジタル音声接続をおすすめします。

<底から見た図>

- テレビの音声を本機で再生するときは、テレビの音量を最小にしてください。

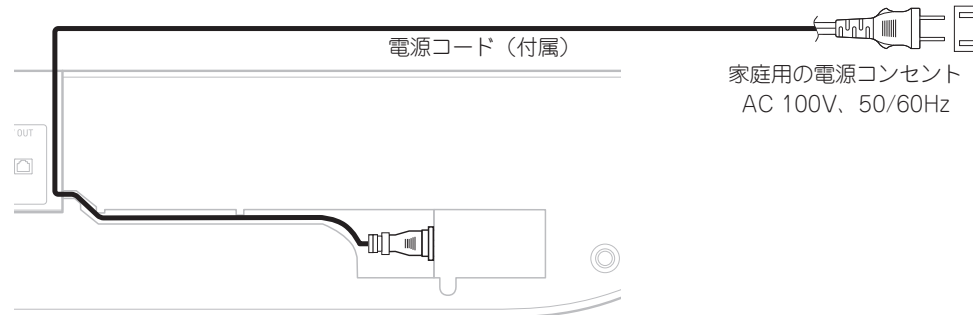
ご注意
付属の光伝送ケーブル挿入時には先端のキャップをはずしてください。

iPod® の接続

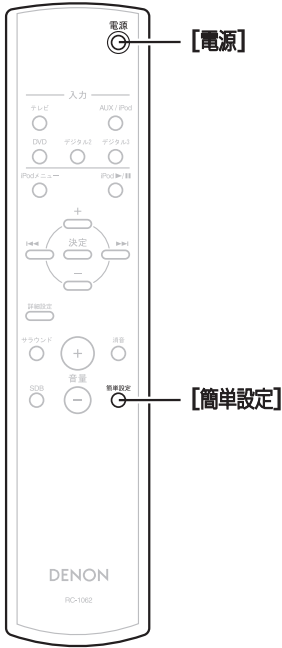
<底から見た図>

- 本機と iPod の接続には、iPod 用コントロールドック(ASD-1R、別売り)をご使用ください。
- iPod 用コントロールドック（ASD-1R）をご使用になる際は、通信モード切り替えスイッチの設定が必要になります。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。
- iPod 用コントロールドック（ASD-1R）の接続には、iPod 用コントロールドックに付属のシステムケーブルをご使用ください。
- iPod 用コントロールドック（ASD-1R）を接続すると、“AUX”のファンクション表示が“iPod”になります。
- iPod 用コントロールドック（ASD-1R）を接続すると、入力レベル調整が自動的に＋ 6dB になります（☞14 ページ）。

《接続のしかた》

電源コードの接続

<底から見た図>

ご注意

電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。

設定のしかた

【操作説明のボタン名について】
< >： 本体のボタン
[ ]： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

- まずは「簡単設定のしかた」でリスニングルームを設定します。
- 必要に応じて「詳細設定のしかた」（☞14 ページ）でリスニングルームの詳細 / 音質 / 各種モードを設定します。

電源を入れる

<ON/STANDBY / OFF> を押す。

- ディスプレイに入力ファンクションを約 5 秒間表示します。また、入力信号およびサラウンドモード表示が点灯します（☞17 ページ）。

※ **[電源]** を押すとスタンバイ状態になります。
ディスプレイに "●" が点灯し、入力信号およびサラウンドモード表示が消灯します。

❑ 電源を切るとき

もう一度 **<ON/STANDBY / OFF>** を押す。

❑ スタンバイ状態から電源を入れるとき

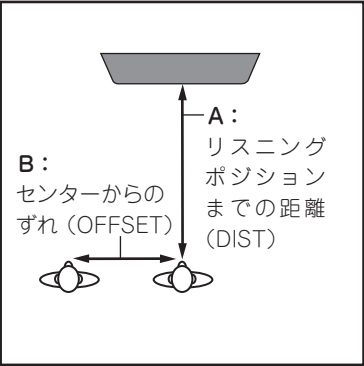
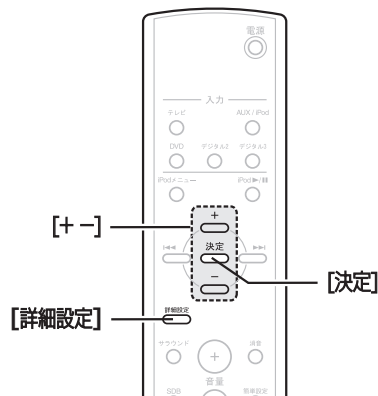
[電源] を押す。

ご注意

- スタンバイ時でも、微量な電力を消費しています。
- スタンバイ状態から **<ON/STANDBY / OFF>** で電源を切ったときに、ディスプレイの "●" 表示がしばらく点灯することがあります。
この後に電源を入れる場合は、10 秒以上経過してから操作してください。

簡単設定のしかた

リスニングルームで [簡単設定] を押す。

- 現在の設定モードを約 5 秒間表示します。
- お買い上げ時の設定は "TYPE-3" です。

	TYPE-1	TYPE-2	TYPE-3
A	1.5m	2.1m	2.7m
B	CENTER	CENTER	CENTER
映画 / 音楽	MUSIC	MOVIE	MOVIE
部屋の響き具合	MEDIUM	MEDIUM	SOFT
部屋の大きさ	約 6 畳	約 10 畳	約 15 畳

《設定のしかた》

【操作説明のボタン名について】
< >： 本体のボタン
[ ]： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

詳細設定のしかた

1 **[詳細設定] で、第 1 メニューの項目を選ぶ。**

2 **[決定] を押す。**
● 第 2 メニューを表示します。

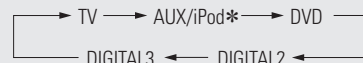
3 **[＋ −] で調節する項目を選び、[決定] を押す。**
※ 第 3 メニューも同様に設定します。

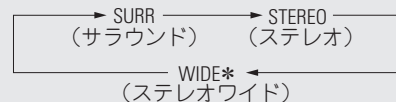
● 各メニューの項目は表示中（5 秒以内）に選択してください。
● 本機の電源を切っても設定した内容を保持します。（“FADER”の設定を除く。）
● ( ) はお買い上げ時の設定です。

第 1 メニュー	第 2 メニュー	第 3 メニュー
[詳細設定] で選び、[決定] で決定する。	[＋][−] で選び、[決定] で決定する。	[＋][−] で選び、[決定] で決定する。
TONE **音質（低域 / 高域）の調節** → 決定	BASS 低域レベル TREBLE 高域レベル → 決定	調節範囲：− 12dB〜0dB〜+12dB
FADER **前後の音量バランスの調節** → 決定	OFF 通常のバランス MOVIE 映画ソース用 MUSIC 音楽ソース用	● サラウンドレベルは、MOVIE モードの方が MUSIC モードより大きくなります。 ● 本機の電源を切るとこの設定は解除され、お買い上げ時の設定（“MOVIE”）に切り替わります。
NIGHT **ナイトモードの設定** → 決定	OFF 通常の再生 ON ナイトモード・オン	● 夜間など小音量で聴くときに “ON” にすると、セリフなどが聴きやすくなります。 ● “DOLBY” または “DTS” デジタル入力音声に有効です。
ROOM **設置位置と、壁の硬さ（音の反射具合）の設定** → 決定	DIST リスニングポジションまでの距離 OFFSET センターからのずれ REFL 壁の反射具合 → 決定	距離の調節範囲：1.2m〜2.7m〜5.4m オフセット距離の調節範囲： L、R それぞれ “0.9m 〜 3.0m” です。これは、リスニングポジションまでの距離の設定値（DIST）によって異なります。 反射具合の設定項目： SOFT ……… カーテンなどがある場合 MEDIUM ……… 木材など柔らかい壁 HARD ……… ガラスや硬い壁など
GAIN **アナログ入力ファンクションごとの入力レベルの調節** → 決定	TV ※テレビ入力端子に接続した音声 AUX ※AUX 入力端子に接続した音声 → 決定	調整範囲：0dB または +6dB
DELAY **音声の遅延時間の調節** → 決定	調節範囲：0ms〜170ms	
PWR ON **オートパワーモードの設定** → 決定	ON オートパワー・オン OFF 低待機電力モード	● 音声入力を検知するとオンになります。無入力状態が 10 分以上続くと、オフになります。 ※ 接続する機器によっては、オートパワーモードが働かない場合があります。このような場合は、手動にて DHT-FS1 の電源を入 / 切してください。
DUAL **2 ヶ国語音声の設定** → 決定	MAIN 主音声を再生 SUB 副音声を再生 M/S 主音声 / 副音声の両方を再生	
CENTER **スピーカーモードの設定** → 決定	OFF 通常再生 ON 本機のサラウンド機能を停止	● AV アンプに本機を接続し、センタースピーカーとサブウーハーとして使用するときにオンにします。本機のサラウンド関連機能が停止します。

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：本体のボタン
［　　］：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

テレビ音声の再生のしかた

1 <INPUT> または [入力] で入力ファンクションを選ぶ。

＊ 本機に iPod 用コントロールドック（ASD-1R、別売り）を接続すると、ファンクション表示が“iPod”（“iPod”）になります。

2 <SURROUND> または [サラウンド] で、サラウンドモードを選ぶ。

＊ ヘッドホンの使用中はステレオワイドモードに切り替わりません。入力信号ごとのサラウンドモードについては「サラウンドモードについて」（☞17 ページ）をご覧ください。

※ テレビ音声の再生中、放送がCMに切り替わった途端に音量が大きくなることがあります。これは音声入力信号が切り替わったことによるものであり故障ではありません。この音量差が気になる場合には、信号の違いによる音量の差が少ない“SURR”モードでの再生をおすすめします。

3 選んだ機器の再生をはじめる。

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 <VOL ＋ － > または [音量＋ －] で音量を調節する。

● 音量レベルを表示します。

※ 音量は 0 ～ 33、MAX の範囲で調節できます。

❏ 一時的に音を消すには

[消音] を押す。

● ヘッドホンの音も消音になります。

※ もう一度 **[消音]** を押すか音量を調節すると解除されます。

❏ 重低音を強調するには

[SDB] を押す。

※ もう一度 **[SDB]** を押すと解除されます。

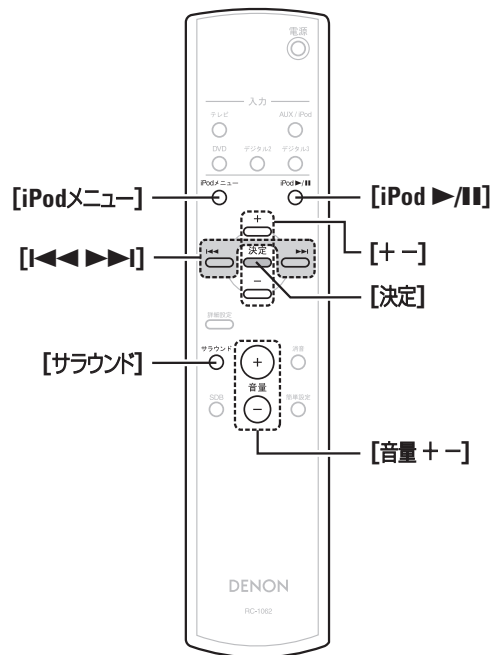
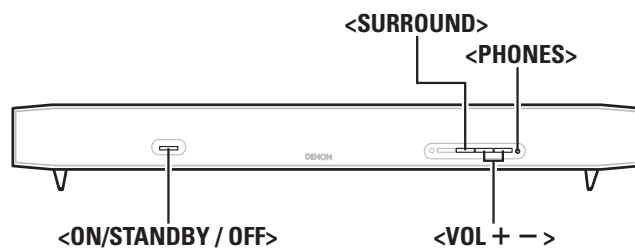
iPod® の再生のしかた

iPod 用コントロールドッグ（ASD-1R、別売り）を使用することにより、iPod の音楽を再生することができます。また、リモコンのボタンから iPod を操作することもできます。
専用 iPod 用コントロールドッグについては、お買い上げの販売店または弊社のお客様相談窓口にお問い合わせください。

Made for iPod　iPod は米国およびその他の国々で登録された Apple Computer, Inc. の商標または登録商標です。

※ iPod は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
※ 接続のしかたは、「iPod® の接続」（☞12 ページ）をご覧ください。
※ iPod® の動作については、iPod® の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

● iPod を本機と接続して使用しているときに、iPod のデータが万一消失あるいは損傷した場合、弊社は一切責任を負いません。
● iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：本体のボタン
［　　］：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

❑ iPod のメニュー表示中のカーソルを操作するには

[＋ －] を押す。

❑ iPod のメニュー表示を切り替えるには

1 [iPod メニュー] を押す。
- ひとつ上の階層のメニューが iPod 本体に表示されます。

2 [決定] を押す。
- カーソルがあるメニュー項目の下の階層メニューが表示されます。

❑ 再生するには

[iPod ▶/❚❚] を押す。

※ 再生中に押すと一時停止します。
※ 曲のブラウズ表示中に押すと、カーソルがある曲の再生をはじめます。
※ iPod 以外のファンクションのときに押すと、ファンクションを iPod に切り替えて再生をはじめます。

❑ 曲の頭出しをするには

[⏮ ⏭] を押す。

❑ 早送り / 早戻しするには

[⏮ ⏭] を長押しする。

ヘッドホンで聴く

1 <PHONES> にヘッドホンのプラグを差し込む。
- ヘッドホンプラグを差し込むと、スピーカーから音が出なくなります。

2 <SURROUND> または [サラウンド] で、サラウンドモードを選ぶ。

DOLBYH ◀──▶ STEREO
（ドルビーヘッドホンモード）　（ステレオ）

※ ドルビーヘッドホンモードのときは“ 🎧 ”を表示します。

ご注意
iPod を一時停止したい場合は、ファンクションが“iPod”のときに **[iPod ▶/❚❚]** を押すか、iPod 本体を操作してください。

サラウンドモードについて

表中のインジケーターが点灯します。

	サラウンドモードの切り替え	2 チャンネル入力時 Analog	PCM	Dolby	DTS	AAC
本体で聴く	SURR	DD PL II	DD PL II	DD D DD PL II	DTS DD PL II	AAC DD PL II
	WIDE	STEREO	STEREO	DD D STEREO	DTS STEREO	AAC STEREO
	STEREO	STEREO	STEREO	DD D STEREO	DTS STEREO	AAC STEREO
ヘッドホンで聴く	DOLBYH	DD PL II	DD PL II	DD D DD PL II	DTS DD PL II	AAC DD PL II
	STEREO	STEREO	STEREO	DD D STEREO	DTS STEREO	AAC STEREO

	サラウンドモードの切り替え	マルチチャンネル入力時 Dolby	DTS	AAC
本体で聴く	SURR	DD D	DTS	AAC
	WIDE	DD D STEREO	DTS STEREO	AAC STEREO
	STEREO	DD D STEREO	DTS STEREO	AAC STEREO
ヘッドホンで聴く	DOLBYH	DD D	DTS	AAC
	STEREO	DD D STEREO	DTS STEREO	AAC STEREO

その他の機能

スピーカーモードについて

将来的に AV アンプを中心としたホームシアターシステムにグレードアップするときに、本機をセンタースピーカーとサブウーハーとしてお使いいただくためのモードです。

- 本機のサラウンド機能およびファンクション切り替え機能が停止します。

操作のしかた

1 **<ON/STANDBY / OFF> を押す。**

2 **スピーカーモードを“ON”にする。**

※「詳細設定のしかた」（☞14 ページ）をご覧ください。

3 **<VOL ＋ － > または [音量＋ －] で音量を調節する。**

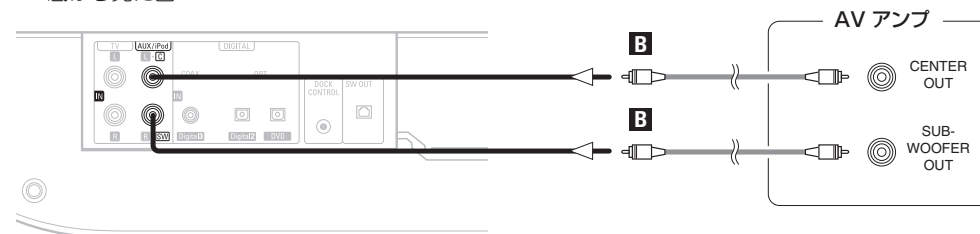
- 音量レベルを表示します。

※ 音量は 0 ～ 33、MAX の範囲で調節できます。

ご注意

AV アンプ側で、本機の音量調節はできません。

センタースピーカーモードの接続

<底から見た図>

その他について

故障かな？と思ったら

❏ 各接続は正しいですか

❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、弊社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現象	原因	処置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず、音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	12
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーケーブル接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	10
	● 入力ファンクション切り替えボタンの位置が不適当である。	● 正しい位置に切り替えて下さい。	15
	● 音量が下がっている。	● 本体の VOL+ ボタンまたはリモコンの音量＋ボタンを押してください。	15
	● 消音になっている。	● 消音を解除してください。	15
	● アナログ接続ケーブルの接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	11、12
	● デジタル信号が入力されていない。	● デジタル信号の入力機器を正しく選んでください。	15
DTS 音声信号が出ない。	● DVD プレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。	● DVD プレーヤーの初期設定をしてください。詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	−
	● DVD プレーヤーが DTS に対応していない。	● DTS 対応のプレーヤーを使用してください。	−
	● 本機の入力設定がアナログになっている。	● デジタル入力を使用し、サラウンドモードを“SURR”にしてください。	15
サブウーハーが鳴らない。	● サブウーハーの出力が接続されていない。	● 正しく接続してください。	10
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。	● 新しい乾電池と交換してください。	6
	● リモコンの距離が離れ過ぎている。	● 近づいて操作してください。	6
	● 本体とリモコンの間に障害物がある。	● 障害物を取り除いてください。	6
	● 乾電池の ⊕、⊖ が正しくセットされていない。	● 乾電池を正しくセットしてください。	6
AAC 表示が点灯しない。	● BS デジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	11

❏ メッセージについて

表示内容

表示	原因	処置
PCM_96	● 再生に対応していない（サンプリング周波数 96kHz）が入力された。	● 本機が対応する 32、44.1、48kHz に再生機器の入力を切り替えるか、アナログ接続にしてください。
ERR-00	● 本機の内部回路が正しく動作していない。	● 電源を切って、再度電源を入れてください。それでもエラーが表示されるときは、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
CHK-01	● 本機の内部が高温になっている。	● 電源を切ってしばらく放置してください。
CHK-02	● スピーカーの接続に異常が発生した。	● スピーカーケーブルをしっかり接続してください。 ● 電源を切って、再度電源を入れてください。それでも“CHK”が表示されるときは、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
CHK-03	● 本機の内部が高温になっている。	● 電源を切ってしばらく放置してください。

保証とサービスについて

1 この商品には保証書を添付しております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書を添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

主な仕様

❑ フロントスピーカーユニット部

形式：	1 ウェイ・6 スピーカー、密閉型、防磁設計
定格出力：	22W × 5（6 Ω） サブウーハー：40W （負荷 3 Ω）（JEITA）
入力感度：	500mV/47k Ω / 250mV / 47k Ω（切替可能）
周波数特性：	120Hz ～ 20kHz
S / N 比：	100dB
電源：	AC100V、50/60Hz
消費電力：	電源入り（ON）時： 51W（電気用品安全法による） 待機（スタンバイ）時：1W 以下
スピーカーユニット：	8cm コーン型× 6
最大外形寸法：	フット不使用時：850（幅）× 96（高さ）× 125（奥行き）mm 高さ 25mm のフット使用時：850（幅）× 111（高さ）× 125（奥行き）mm 高さ 35mm のフット使用時：850（幅）× 121（高さ）× 125（奥行き）mm
質量：	4.6kg

❑ サブウーハー部

形式：	1 ウェイ・1 スピーカー、バスレフ型
再生周波数帯域：	45Hz ～ 120Hz
最大入力：	40W（JEITA）、80W(PEAK)
入力インピーダンス：	3 Ω
スピーカーユニット：	16cm コーン型× 1
最大外形寸法：	106（幅）× 380（高さ）× 360（奥行き）mm
質量：	5.6kg

❑ リモコン（RC-1062）

リモコン方式：	赤外線パルス式
電源：	単 4 形 乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	49（幅）× 220（高さ）× 24（奥行き）mm
質量：	110g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　00D 511 4600 304A